２０２２（令和４）年１２月１４日

報道関係各位

阪神電気鉄道株式会社
株式会社阪神タイガース
尼崎市

2025 年２月に阪神タイガースファーム施設（２軍本拠地）が移転する尼崎市小田南公園は

ゼロ カーボン ベースボール パーク
ZERO CARBON BASEBALL PARK

として整備・運営します。

阪神電気鉄道株式会社（本社：大阪市福島区、社長：秦雅夫）、株式会社阪神タイガース（本社：西宮市、社長：百北幸司）及び尼崎市（市長：松本眞）（以下、総称して「関係三者」といいます。）は、2025 年 2 月に阪神タイガースのファーム施設が移転（阪神タイガースファーム施設（２軍本拠地）移転計画※1）する尼崎市小田南公園について、関係三者が協力して『ゼロカーボン ベースボールパーク』として整備・運営していくこととなりましたのでお知らせいたします。

本計画では、創エネとして阪神タイガースが利用する室内練習場や選手寮兼クラブハウスの屋上、タイガース野球場のバックスクリーン背面に太陽光パネルを設置することで、年間約７３万 kWh の発電量を見込みます。また蓄電池も設置することで発電した電気を自家消費します。これはナイター試合も開催するタイガース野球場で想定される年間電力使用量の８０%強に相当します。不足する電力は尼崎市のクリーンセンターの廃棄物発電による二酸化炭素排出量ゼロの電力※2 を活用いたします。一方、省エネとしては高性能断熱材の屋根や壁、Low-E 複層ガラス、高効率空調機（高効率型ヒートポンプパッケージエアコン）、全熱交換器、昼光センサー・調光機能付き LED 照明、高効率給湯機（ヒートポンプ式給湯器、潜熱回収型ガス給湯器）、高効率型モータ

ーによる換気設備等の採用や、それらの電力消費量を「見える化」するエネルギーマネジメントシステム（EMS）の導入を予定しています。

それら創エネと省エネによる二酸化炭素排出削減量は年間約１，０００t-CO_2以上を見込んでおり、野球施設としては初めて※3、室内練習場は ZEB Ready※4、タイガース野球場は ZEB Oriented※4、の認証取得を目指します。

その他にも雨水・井水の活用やペットボトル・プラスチックカップの回収リサイクルといった環境に配慮する様々な取組み（別紙参照）を関係三者が協力して実施し、更にはそれらの取組みを周知することで環境意識を高めるなど、脱炭素社会や循環型社会の実現に資する環境活動を推進します。

※1. 2021 年 12 月 22 日リリース「阪神タイガースファーム施設（２軍本拠地）の尼崎市への移転が正式に決定しました」
URL: https://www.hanshin.co.jp/company/press/detail/3377

※2. 尼崎市エネルギー地産地消の促進事業
URL:https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/kurashi/kankyo/hozen/1022782/index.html

※3. 一般社団法人住宅性能評価・表示協会の開示情報に基づく
URL:https://bels.hyoukakyoukai.or.jp/cases/list

※4. ZEB Ready：従来の建物に必要なエネルギー消費量から 50%以上のエネルギー消費量削減に適合した建築物
ZEB Oriented：延べ面積が 10,000 ㎡以上の建物で、従来の建物に必要なエネルギー消費量から 40%又は 30%（建物用途による。）以上のエネルギー消費量削減に適合した建築物。

参考：2022 年 4 月 26 日リリース「第１回脱炭素先行地域に尼崎市と阪神電気鉄道株式会社の共同提案事業が選定されました」
URL: https://www.hanshin.co.jp/company/press/detail/3498

この件に関する報道関係からのお問合せは、

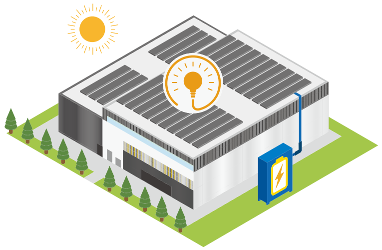
阪神電気鉄道株式会社 経営企画室（広報担当） 担当：永井、長田
（平日 8:45～17:45） TEL 06-6457-2130
株式会社阪神タイガース 広報部 担当：森田 TEL 0798-46-1515
尼崎市経済環境局経済部経済活性課 担当：藤田 TEL 06-6489-6670
環境部環境創造課 担当：宗和 TEL 06-6489-6301
都市整備局土木部公園計画・21 世紀の森担当 担当：春田 TEL 06-6489-6530

までお願いします。

具体的な取組み（予定）

別紙

1 太陽光発電・蓄電池の導入



2 省エネの徹底（ZEBReady化）

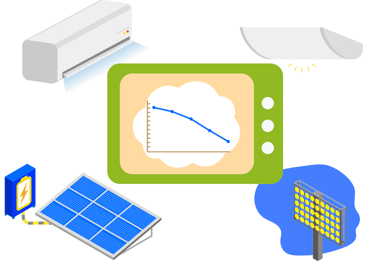
3 クリーンセンターの廃棄物発電の活用

4 バイオマス製品の活用

5 ペットボトル・プラスチックカップの回収・リサイクル

6 雨水・井水の活用

7 現公園内にある樹木（イチョウや梅など）の移植

8 公共交通機関を利用した来場の呼びかけ実施

9 太陽光発電量や二酸化炭素削減量の見える化